

紀南病院広報誌

第28号

平成24年4月

# つながり

紀南病院スローガン(24年4月～) 笑顔で始まり 笑顔で終わろう



脳外科外来

熊野市飛鳥町

## ■病院理念

優しくて、温かい、確かな医療を提供し、紀南の環境文化に根ざした地域連携の充実に努めます

## ■基本方針

1. サービス精神(KINAN)の徹底  
——(K)気持ちをこめて、(I)いつまでも、(N)納得のいく、(A)安心で安全な、  
(N)任務の遂行
2. 患者さんの権利を尊重し、わかりやすい説明を励行
3. 生活の質の向上(QOL:quality of life)を中心とした診療と援助
4. 行政や医師会と協同した地域医療の向上  
(救急医療・高齢者医療・健診・地域連携・福祉など)
5. 職員研修の強化と遠隔地医療教育の必須化
6. 職場環境の改善と健全な病院経営に基づく医療環境の提供

# 紀南病院に着任して3ヶ月

副院長 中井桂司



平成24年1月、長野県の八ヶ岳山麓の高原病院から、紀南病院に着任し、やっと3ヶ月が過ぎました。気づけば、水田に水が入れられ、田植えが始まっています。この3ヶ月間が、ただ夢中に過ぎたということを実感しています。須崎院長をはじめとする紀南病院の職員のみなさんや、患者さん、また、地域の方々に、暖かく受入れていただき、大変、感謝しております。

私は、三重大学医学部で、約10年間、医学生や看護学生の教育、研修医指導などに携わっておりましたが、紀南病院でも、奥野先生が所長をされておられる、地域医療研修センターが活発に活動していることから、いつも、たくさんの研修医や医学生が、「地域医療」を学びにきてくれています。そこで、私自身、大事なことは、地域医療とは、「現場に立つこと」であり、継続するためには、「一人ではなく皆であること」だと考えています。地域医療の現場で、皆で誠実に努力することを、都会から来てくれている研修医のみなさんにも加わってもらい実感してもらうことが、最高の「地域医療研修」になると考えています。

紀南病院に来て3ヶ月、すでに、たくさんの患者さんの死に関わってきました。もちろん、自分以外の医師が担当したら、この方は、もっと良くなったのではないか、あるいは、亡くならずにすんだのではないか、と、いつも自問自答しています。

不老長寿の薬を求めて、徐福を新宮にも派遣したという秦の始皇帝の時代と比べれば、かなりの疾患が治療できるようになり、日本は、世界一の長寿社会になりました。しかし、いまだに、医学はまだまだ完成途上にあり、死を完全に克服していません。世界一の長寿社会を実現した、この国の国民性や社会制度はすばらしいと思います。でも、超高齢化社会であるこの地域の医療に携わっておりますと、それが本当に幸せなことなのか、また、医療保険制度や介護保険制度などの社会制度の限界を、日々、実感せざるをえません。どうすれば、患者さんや地域のお年寄りの一人一人の生活をどのように支えていくことができるのでしょうか。制度の隙間に落ち込むことなく、病院を退院後も安心して過ごしていただけるように、手助けしていくたいと考えています。そして、長生きを手放して喜べる社会になればいいなと願っています。

三重大学では、一年生の医療概論というカリキュラムを担当していましたが、その中で、毎年、医学生と一緒に黒澤明の名画「赤ひげ」を観るようにしていました。赤ひげと呼ばれる小石川診療所長の新出去定（三船敏郎）が、指導を受けている若い医師の保本登（加山雄三）に、「人生で、最も莊厳なものは臨終だ」と話す有名な場面があります。私は、患者さん一人一人の人格を尊重して、そして、その長い人生のほんの最後、でも、最も莊厳な場面に、少し関わりを持たせていただくことになったことに感謝しています。

「Not doing, but being」

日本語に訳すると、「なにかをするのではなく、そばにいるだけでいい」という意味になるかと思います。この言葉は、「ホスピスの母」とも呼ばれる、イギリスの女医、Dame Cecily Saunders先生（1918－2005）のお言葉ですが、Saunders先生は、「末期患者を見捨てているのは医者だ」と、若い医師のころに気づき、当時、治療対象ではないとされて、つらい状態におかれていた、末期患者さんのために必要なケアを実践することを始めた、という、すばらしい先生です。

私も、以前は、受け持ち患者さんの状態が厳しくなりますと、つい、なにかをしたくなる、その場から逃げ出したくなる、そんな気分になることがありました。いまは、超高齢化社会における地域医療を学ぶ若い医師たちに、「なにかをするのではなく、そばにいるだけでいい」という、Saunders先生の精神を、伝えていけたら、と、願っています。

なんだか、湿っぽい話になりましたが、今後も、努力を続けていきますので、今後とも、どうぞ、よろしくお願いします。

## 津市で「紀南を語る会」開催



このたび津市において、野口孝名誉院長、中井桂司副院長、御浜町出身で津市で開業しておられる東良久先生、紀南地域出身の三重大学医学生が集まり、紀南について熱く語り合いました。

東先生には、4月から月1回、紀南病院の内科外来支援をしていただくことになりました。

今後もこの輪を大きく継続

しながら、紀南病院の情報を共有し、支援の方法を語ろうということになりました。



## 紀南病院組合議会 3月定例会の報告

去る3月29日、紀南病院組合の定例議会が開催されました。

人事院勧告による給与条例改正、平成23年度補正予算、平成24年度当初予算案等が原案通り可決となりました。

平成24年度予算につきましては、収入で44億9,600万円、支出で45億2,700万円を計上しています。内訳は、病院が7,700万円の赤字、きなん苑は4,600万円の黒字で、全体で3,100万円の赤字予算の計上となっています。

平成24年度では、本館改築の実施設計、MR1、電子カルテの更新等が行われる事となります。

# がん患者の会（和みの会）を開催

がん患者の会（和みの会）では、3月4日「餅つき大会」を開催しました。

患者さんやご家族、サポートスタッフで楽しくにぎやかに餅をつき、できたての餅をみんなでおいしくいただきました。患者さんからの提案で行った初めての餅つきでしたが、笑顔の絶えない貴重なひと時を過ごすことができました。また、会の中では「病気を抱えながらもひとりで悩むことなく、これからもみんなで支え合っていこう」という声が多く聞かれ、患者会の絆をますます深めることができました。

次回は5月26日（土）、阿田和海岸（ふれあいビーチ）へのピクニックです。初めての方、また、ボランティアの方もお気軽にご参加ください。（お問合わせ先は看護部長・宮向井まで）



## 23年度中に当院に寄せられたご意見（入院生活アンケート分を除く）

<内容別件数>（全112件）

●設備・環境への要望	30件	●職員の接遇に関するご意見	21件
●診療システムへの要望	12件	●入院中の食事についてのご意見	15件
●診療内容・説明についてのご意見	2件	●個人情報に関するご意見	1件
●感謝・お礼の投書	31件		

寄せられたご意見の一部（要旨）を紹介します。

『トイレの汚れが気になります』

▶清掃委託業者との連絡を密にして、清潔保持に努めます。

『入院中の食事がおいしくない。』

▶病院では、給食委託業者と定期的に話し合いを持ち、改善に努めています。23年度は副食を増やす等の対応も行ないました。24年度予算で、調理器具等の更新も予定しています。今後も皆様に満足していただけるよう努力してゆきます。

『人間ドックのオプション検査の一覧表が欲しい』

▶作成し、外来棟にも掲示しましたが、ご希望の際は、総合受付にお申し出下さい。

『高齢の患者に対して配慮が不足しており、親切な

態度ではなかった。』

▶不快な思いをさせてしまい申し訳ございませんでした。職員の接遇につきましては、年2～3回の研修を実施し、能力向上に努めております。

『脳神経外科外来のディスプレイ。今月もお見事。いつも楽しみにしています。』

▶同様の投書をたくさんいただいております。ありがとうございます。

この他に、皆様からの感謝の投書もたくさんいただき、職員にとっては大いに励みになりました。今後も皆様のご意見を生かさせていただき、より良い医療サービスを提供するよう、努めてまいります。

## 接遇研修会を開催



ハートフル委員会（接遇委員会）が毎年行っています接遇研修会が、2月15日に開催され、約70名の職員が参加しました。今回は、高田短期大学のオフィス人材育成学科准教授の杉浦礼子先生を講師にお迎えし、「患者さんに対する基本的な接遇について」をテーマに、患者さんに安心感・好感度を高めるコミュニケーション術や、クレーム対応の仕方などをお話しいただきました。今後お話をいただいた内容を実践し、患者さんに対する思いやりを忘れず、医療サービスの向上に努めたいと思います。





# 新人看護師「一年を振り返って」



左から、宇恵、笹之内、湊の各看護師

この一年は、初めて経験することばかりで、緊張の連続でした。初めての採血では手が震え、患者さんに御迷惑を掛けました。初めての処置で先生に叱責されて、処置につくのが怖くなった時期もありました。でも逃げていては前に進めないので、立ち向かえ精神で何とか乗り越えてきました。いまでも先輩看護師に迷惑をかけることがあります。それでいつも温かい言葉で励まし、支えていただき、感謝の気持ちで一杯です。今後もがんばっていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

4階南病棟

宇 恵 裕 夏

去年の4月から看護師の免許を取得して働きだし、一年間がたちました。初めは、緊張と不安が強く、何もわからぬ状態が続き、毎日が大変でした。先輩方に検温や処置、検査など一緒にについて教えてもらいい、一つ一つ丁寧に教えてもらいました。しかし、なかなか覚えることができず、涙することもたくさんありました。まだまだ業務を覚えることに必死で、スタッフの手伝いができるない状態ですが、スタッフの一員として手伝えるよう、頑張っていきたいと思います。

4階中央病棟

笹之内 香 波

新人看護師による一年間を振り返る報告会が開催されました。それ苦労もありましたが、皆さん頑張って成長した姿に、温かい拍手が贈られました。以下、コメントです。



この一年あっという間でした。この一年で「これが完璧にできるようになりました。」と言えるものも特に多く、仕事を覚えるだけで終わってしまったと思います。二年目は仕事も覚え少し余裕が出てくると鬼うるので、今まで教えていただいたことを再度まとめ直し、できることを増やしていきたいと思います。そして、自分がこの一年で先輩十ースにあ世話をなった分を、新人十ースに何か返していきたいと思います。

3階南病棟

湊 桃 子



## 「つながり」命名秘話

当広報紙「つながり」も、創刊から7年が経ちますが、ここで「つながり」という名前の由来を紹介します。

今から14年前の平成10年4月1日。その日は、新しく開設される紀南病院組合介護老人保健施設（現「きなん苑」）の名称を決める日でした。事前に住民の方に、名称を公募していたこともあり、会議では百くらいの案が検討されましたが、「きなん苑」に決まりました。

その会議で採用されなかった一つの案が「つながり」でした。当時、病院長をされておられた梅田一清先生（先々代院長）が「つながりっていいなあ。ねえ。」と発言されたと記憶しています。院長発言ですから、全員が重く受け止め考えます。「介護老人保健施設つながりかあ・・・。」沈黙の時間が流れました。

時は7年後の平成17年4月。病院広報紙を創刊することになり、各委員が名称を考えてきて、持ち寄って決める会議において、「つながり」に決まりました。ほとんどの委員が、7年前の梅田先生のエピソードを知らないはずでしたが、梅田先生のあの時の思いが、形を変えて実を結びました。

ところで、その会議でも、歴史は繰り返します。現在の院長、須崎真先生（当時副院長）から、「〇〇〇〇」という名称が提案されたのです。「〇〇〇〇ってどう？」。（四文字とも漢字で、紀南地域にある景勝の地名）副院長発言ですから当然、全員が重く受け止め考えます。「紀南病院広報紙〇〇〇〇かあ・・・。」7年前と同じ、沈黙の時間が流れました。

「〇〇〇〇」は、いずれ大切な何かに命名されると思われます。

（編集委員・金井秀史）



## 紀南病院外来診療担当表

平成 24 年 4 月 12 日現在

区分	月	火	水	木	金
内科	1 診	中井桂司副院長 北出 順医師	森 将之医師	小林 文人医長	中井 桂司副院長 東良久医師(月1回第1)
	2 診		西久保公映医師(隔週)		奥野正孝内科総括
	3 診	小林 文人医長 辻 正範医師	小林 文人医長	中井 桂司副院長 尾辻典子医師(第1・第3)	
	4 診				糖尿病指導 ・糖尿病専門外来(月1回) ・住田 安弘医師 ・肝臓病専門外来(月1回) ・杉本 龍亮医師 ・循環器専門外来(月1回) ・山門 徹医師
外科	1 診	乳腺専門外来(第1曜日) 小川 朋子医師	須崎 真院長		須崎 真院長
整形外科	2 診	大倉 康生医長	大倉 康生医長	伊藤 貴洋医師	伊藤 貴洋医師
	再 診	中空 繁登医長	中空 繁登医長	濱口 貴彦医師	濱口 貴彦医師
脳神経外科	初 診	濱口 貴彦医師	濱口 貴彦医師	中空 繁登医長	中空 繁登医長
	2 診	仲尾 貢二医長	仲尾 貢二医長	柄尾 廣医師	脳ドック専門外来 仲尾 貢二医長
眼科	1 診	久保 朗子医長 (第1・第3・第5休診)	久保 朗子医長	久保 朗子医長	久保 朗子医長
産婦人科	1 診	紀平 知久医長	山崎 晃裕医師	紀平 知久医長	山崎 晃裕医師
	2 診	山崎 晃裕医師	紀平 知久医長	山崎 晃裕医師	紀平 知久医長
小児科	1 診	間宮 範人医長	間宮 範人医長	間宮 範人医長	間宮 範人医長
皮膚科	1 診	嶋 聰子医長		嶋 聰子医長	嶋 聰子医長
神経内科	1 診			畠中 良夫医師 午前: ドック健診 午後: 神経内科診療	成田 有吾医師 木田 博隆医師 谷口 彰医師 松浦 慶太医師 もの忘れ外来(月1回) 佐藤 正之医師
泌尿器科	1 診			三木 学医師	
耳鼻咽喉科	1 診				松浦 徹医師(午前)
歯科口腔外科	1 診	平本 嘉一医長	平本 嘉一医長	平本 嘉一医長	平本 嘉一医長
備考		* 受付時間は午前 7 時 30 分～午前 11 時 30 分までとなっております。ただし、急患については時間外でも受付します。なお、当院を初めて受診される患者様及び、診察券をお持ちでない患者様の受付時間は、午前 8 時からとなります。 * 内科は完全予約制の為、予約が必要です。紹介状があれば電話予約が可能です。健康診断で異常を指摘された場合も、結果票が紹介状の代わりになりますので、予約可能です（地域連携室までお電話下さい）。 * 整形外科・皮膚科の受付時間は午前 7 時 30 分～11 時までとなります。 * 神経内科は完全予約制の為、予約が必要です。紹介状があれば電話予約が可能です（地域連携室までお電話下さい）。初診は水曜日となります。 * 眼科は、第 1 ・ 第 3 ・ 第 5 曜日は休診となります。 - 小児(中学生まで)の検査は午後の予約の為、予約が必要となります。(眼科外来までお電話ください。) - コンタクトレンズの取り扱いはしておりません。 * 泌尿器科は完全予約制の為、予約が必要です。紹介状があれば電話予約が可能です（地域連携室までお電話下さい）。			

## 着任先生紹介



- ①前任地 ②趣味 ③医師を志した理由 ④抱負



内科医師 森 将之 医師 (4月1日着任)

- ①さいたま医療センター  
②読書、映画鑑賞  
③他の人の役に立つ仕事をしたかった為。  
④地域の皆様が御健康でいられるよう精一杯  
頑張ります。



内科医師 塩谷 拓也 医師 (4月1日着任)

- ①伊勢赤十字病院  
②スポーツ観戦  
③子どものころ、体が弱くよく入院していたため。  
④まだ未熟者ですが、精一杯頑張ります。よろしくお願いします。



内科医師 山本 貴之 医師 (4月1日着任)

- ①済生会松阪総合病院  
②いっぱい食べること  
③人と関わる仕事がしたかったので。  
医療系ドラマとかにも影響されました。  
④良好なコミュニケーションが取れてこそ医師  
です。  
どんなことでも気軽に声をかけてください。